

## 道徳教材『ぶらんこ復活』を用いた法教育

### 第1 授業の目的

文部科学省が作成する『私たちの道徳3・4年生』の中の、『ぶらんこ復活』という道徳教材を用いた授業を通じて、児童に、「ルールを守ることの大切さ」という道徳的なことを学んでもらうとともに、「ルールはなぜ必要なのか」、「ルールを作るときには、どういうところに注意しなければならないのか」等の法教育的な内容を学んでもらうことにあります。

ここで法教育とは、子どもたちに、個人を尊重する自由で公正な民主主義社会の担い手として、法や司法制度の基礎にある考え方（自由、公正、正義等）を理解してもらい、法的なものの見方や考え方を身につけてもらうための教育をいいます。

道徳教育と法教育を融合させることによって、授業目的をよりよく達成させるという試みが、以下の授業の進行にあります。

【参考】『私たちの道徳3・4年生』（文部科学省ホームページ）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1344253.htm)

### 第2 授業の進行

#### 1 導入（5分）

発問 「身の回りにどんなきまりがありますか？」

（『私たちの道徳3・4年生』120ページ、121ページの資料等を用いる）

⇒ 学校や地域で、いろいろなきまりがあることに気付いてもらう

#### 2 展開1（15分）

(1) 道徳教材『ぶらんこ復活』の122ページ9行目まで（「・・・まだ、心配です。」）を読む。

(2) その後、どのような状況かの共通理解を得た上で、以下の発問をし、登場人物の心情を把握していく。

発問 「恵さんの気持ちを考えてみよう？」

「恵さんはどんな気持ちになりましたか？」

回答例：楽しくあそびたい

発問 「校長先生はどんな気持ちになりましたか？」

回答例：安全に遊ばせたい

(3) 登場人物の心情をしっかりと把握した上で、以下の発問によりルールの必要性に気付いてもらうように、誘導していく

発問 「さくを作ったけれど、それだけで大丈夫かな？」

（恵さんの気持ちと校長先生の気持ちを合わせて考えたら）

「どうしたらよいのかな？」

(4) 児童にルールの必要性に気付いてもらったら、そのルールをどうやって決めていけばよいのかということを考えてもらう。 ※ 法教育的視点

発問 「では、どうやってルールを決めていけばいいのかな？」

- ⇒ 先生に決めて欲しい、先生が決めてもよいという意見が出た場合  
「放課後の5分間だけぶらんこが出来る。」、「先生がいるときだけぶらんこができる。」といったような児童にとって受け入れがたいルールを提示し、児童自身が考える方向に導く。
- ⇒ 先生がいなくても安全にできるルールを自分たちで考えなければならぬということを確認してもらう

### 3 展開2 (15分)

- (1) 「道徳教材『ぶらんこ復活』の残りの部分(122ページ10行目から123ページ)を読む
- (2) ルール作りの目的をしっかりと押さえた上で、以下の発問等で、児童にルール作りをしてもらう。 ※ 法教育的視点
- 発問 「けがをしないでみんなで楽しく遊ぶには、どのようなルールにしていけばよいのでしょうか？」
- 例 危険な乗り方はしない。  
順番待ちの時は、さくの外にいる。  
順番をまもって遊ぶ。  
低学年を優先させる。
- ⇒ ルールの中には、「けがをしない」(危険防止)ためのものと、「みんなで楽しく遊ぶ」(公正・平等)ためのものがある。
- ⇒ ルールを破ったら罰を与えるというルールが提案されたら、目的に立ち返って、そのようなルールが果たして必要かどうかを考えてもらう。
- ⇒ ルールを作っていくときに、どのような点に注意しなければならないのかを理解してもらう。
- (3) ルールができたなら、以下の発問で、本当にそのルール守れるかどうかを考えてもらう。 ※ 法教育的視点
- 発問 「みんなでルールを作りましたね。では、そのルールを本当に守れるかな？」
- ⇒ ルールの内容を検証していくことで、ルールを決める際に、ルールが適正で守れるルールでなければならないことを理解してもらう。

### 4 まとめ (5分)

- (1) 学校生活や学級、地域のことを振り返って、どのようなルール(きまり)があるのか、どうしてそのようなルール(きまり)があるのだろうかということを考えてもらう。
- 例 廊下は走らずに歩く  
(けがをしないため)  
遊具の使い方、しまい方  
(継続的にみんなが使える(楽しく遊べる)ようにするため)
- (2) ルールは、みんなが安全に生活したり、楽しく遊ぶことにつながっているものであり、ルールの存在とルールを守ることの大切さを理解してもらう。

以上